

加藤恭子ゼミナール 登竜門企画 二十歳の頃

# 異なる職種の共通点

## ～Enjoy しよう！学生時代～

D 班：河野 西森 細川 松浦

### 1.はじめに

私たちは、異なる職種の、人の上に立ち仕事をしている方々にお話しを伺い、共通点を見つけ今後の私たちの行動の参考にしたいと考えました。そこで、居酒屋を経営する株式会社ベアーズコーポレーション 代表取締役の中嶋唯雄様と、医療法人社団シオン会スマイルこどもクリニック 理事長の大城尚史様にインタビューをお願いしました。

### 2.インタビュー内容

#### 1) 20歳の頃の毎日の送り方について

中嶋さんは、高校から始めたラグビーを大学でも続け4年間寮生活をしながらラグビー漬けの毎日を送っていたそうです。

大城さんは、2年間の浪人生活を経て、大学に入学したばかりでした。大学入学後は続けるつもりがなかったテニスでしたが、高校時代に国体や全日本に出場するほどの実力を持っていたため、顧問から勧誘され、大学時代もテニスを続けたそうです。

#### 2) 将来のビジョンについて

中嶋さんは、良いところに就職できればいいと漠然と考えていて、起業することは考えていなかったそうです。

大城さんは、医学部は、将来の選択肢が幅広く、いろいろな職業に就くことができるため、この頃はまだ医者になろうとは考えておらず、未知数でいたかったそうです。

#### 3) 考え方の変化について

中嶋さんは、学生の頃は、部活動において自分が主力メンバーになれないのは、監督の指導や、外部に問題があると、周りの責任にしてばかりだったそうです。しかし今は、会社を経営し、人の上に立つようになり、何をやるにおいても自分の責任になると考えるようになったそうです。自分がトップとして社員を選ぶときに、特に人の本質を重視するようになっているとおっしゃっていました。

大城さんは、学生の頃は、「人の価値は地位、名誉、お金ではなく、人の本質を見る」という箇条書きのような価値観をもっていたそうです。そして、クリスチャンになった時「神

を愛し、人を愛す」という教えを知り、学生の頃の箇条書きのような価値観には、根底にこの教えがあったということに気づいたとおっしゃっていました。

#### 4) 今でも変わらないものについて

中嶋さんは、ラグビーというスポーツを通じて、仲間を思うことや、嘘をつかず、誠実であること、また、同じ目標を持って向かっていくことを学び、それらのことを社会人になった今も同様に自分自身の軸にしているそうです。

大城さんは、人を大事にする心はもちろん、部活動で培ったチームワークは、医者になった今も重要視しているそうです。

#### 5) やっていてよかったこと、やっておけばよかったこと

中嶋さんは、自分の努力や実力が認められない苦しい中で頑張りを続けたことで、心身共に鍛えられたこと、そして何より、大切な一生の仲間ができたため、ラグビーを続けてよかったとおっしゃっていました。ただ、ラグビー漬けの毎日で遊ぶ暇がなかったので、もっと遊びたかったそうです。

大城さんは、人との出会いや生涯の親友を得ることができ、他にも親しい仲間がたくさんできたため、テニスを続けてよかったとおっしゃっていました。やっておけばよかったこととして、英語の読み書きはある程度できていたが、話すことや聞くことがあまりできなかったため、若いうちから生きた英語に触れておけばよかったとおっしゃっていました。

お二方のお話を伺い、以下の6つの共通点を見つけました。

- ①好きなことを第一に頑張っていた
- ②今就いている仕事が決まっている訳ではなかった
- ③人の本質を見る
- ④チームワーク、仲間を大切にする
- ⑤大切な仲間を作った
- ⑥学生らしい遊びや勉強がしたかった

## 4. おわりに

具体的な目標や夢を学生である今のうちから決めておく必要は決してなく、学生らしい遊びや勉強など、好きなことを第一に頑張ること、たくさんの人と関わり、仲間とのチームワークを大切にすることが重要だと分かりました。今回の企画を通して、班で協力して作り上げたときの達成感や、一から始める大変さを、身をもって感じました。お忙しい中、私たちのインタビューを快く承諾してくださった中嶋さんと大城さんに心より感謝し、改めて御礼申し上げます。